

2022 年度第 4 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2022 年 8 月 9 日（火） 午後 8 時 00 分から午後 9 時 00 分
- 2 方 法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：9 名
出席者：座間直壯、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、中川恭一、保坂一房、堀 渡、堀越洋一郎
欠席者：清田義昭
事務局員の参加者：雨谷逸枝

（1）第 1 号議案 会員の動向について【報告】

- ・2022 年 8 月 1 日現在
正会員 80 名 2 団体 賛助会員 35 名 2 団体、計 115 名 4 団体（合計 119）
（前回と変わらず）

（2）第 2 号議案 総会記念講演会の配信について【報告・討議】

- ・たましん歴史文化財団歴史資料室室長で多摩デポ理事の保坂一房氏に「地域資料とデジタルアーカイブ—たましん歴史文化財団歴史資料室を例に」と題して講演してもらった。
- ・8 月 1 日（月）午後 10 時 40 分、ML に登録している多摩デポ会員に URL を送り、YOU-TUBE 動画による総会記念講演会の限定公開を開始した。9 月一杯までの期限付き公開とした。
- ・予告より若干開始が遅れたが、8 月 9 日午前 12 時現在、57 回の視聴数となっている。新型コロナウイルスの蔓延前、年度総会を具体的な日時を決めて公共施設の会場で開き、あわせて記念講演会を開催していた頃より、案内を受けとった会員のうち大勢の方が、伸びはゆっくりだが視聴されていると思われる。
- ・会員への周知と ML 登録の現状
 - ・会員には、7 月 1 日に総会の報告文書とこの講演会の予告チラシを郵送した。チラシの中で、電子メールは受け取れるが、メール登録がまだの人は申し出てくださいと依頼した。二人から反応があり受け取れるようにした。（会員の大半がメール登録しているが、登録していてもこの間、不着になってしまっている方はさらにありそうで調査中。判明したら個別に連絡を取り、つながるように是正していく予定）
- ・講演会コンテンツの製作
 - ・講演の本体部分……保坂理事が自分で講演の表示方法を考え、パワーポイントを使って画像や音声を付けた録画物（①）。 ・講演前の主催者の挨拶……座間理事長が自分で ZOOM カメラに向かい、挨拶を語った録画物（②）。 ・冒頭タイトルと最後の主催者からのコメントの二画面（③）……堀が人に頼んで作り、①+②+③をつなげた。
 - ・③の作業は 7 月末になった。集団で仕上げていくには、時間も技術も足りなかった。
→ オンデマンド講演としては、時間的には丁度よく、構成もよくまとまっていたのではないかと。

→ オンデマンドには、繰り返し視聴することができるというメリットがある。

・視聴した会員へのアンケート

・動画公開に間に合わなかったが、これから公開して、視聴した会員に感想や意見を聞きたいと考えている。グーグルフォームに記入してもらってアンケート案を事務局から示し、検討した。

→ 質問の順番、項目追加など、出された意見を踏まえ、事務局で整理し提案する。

・講演会動画の今後の利用法について

・会員には9月一杯の公開と告知して URL を ML で通知した。それ以外の PR はしていない。

・その後、会員外に（多摩地域の図書館員、市民、博物館員などにも）見られるようにする。

→ 多摩デポ HP に URL を貼り付け、広く見てもらえるようにする。その時までには周知したい先を考え、PR を工夫する。

→ たましん歴史資料室の経験からも、コンテンツは長く公開していた方が少しずつでも見てくれる。

・講演後の展開について

・多摩地域の個々の図書館等でもデジタルアーカイブの製作や公開を始めているが、そのことがまだ図書館同士で話題になったり、相互批評になったりすることは乏しいようだ。紹介された歴史資料室のデジタルアーカイブや保坂氏の説明を、図書館界での議論のきっかけにしていくにはどうしたらいいか。

→ アンケートに書き込まれた回答があったら、それを『多摩デポ通信』に紹介したい。市民・利用者からの感想、公立図書館からの感想の応答があってもいいかもしれない。感想や反応を集めていきたい。

・この講演を基にしたブックレットの刊行について

→ 年度内の刊行を目指す。

→ 動画そのままではブックレットにならない。保坂氏の以前の第2号は「収集と保存」だったので、今回は「利用」についても触れたい

→ 歴史資料室のデジタルアーカイブの検索方法やレファレンスの事例なども入れたい。

(3) 第3号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・討議】

・日本図書館協会の季刊誌『現代の図書館』への論文の掲載は、著者校正まで終わった。

・『専門図書館の蔵書の書誌に対する ISBN 大量遡及入力の実践—たましん地域文化財団歴史資料室を事例に—』(齊藤誠一、保坂一房、吉本龍司) 同誌 第60巻2号。発行は、9月になる見通し。

・定例会で次に取り組む課題は3案が出ている。定例会は8月12日に行う。前回の理事会から進んでいないが、事務局内などで出ている意見を紹介する。

(1) 「多摩デポ統合検索」での書誌割れの解消について

・現状の多摩デポ統合検索では、各図書館の OPAC の書誌の細部が違うことを反映して、書誌割れが起こる。単純明快な、同定識別ができない。これの解消をどう進めるかが数年来の宿題であるが進んでいない。

- ・事務局内の議論では、（説明を付して）現状のまま公開することも一法ではないかという議論も出ている。

(2) 多摩地域のデジタル資料のアーカイブについて

- ・各自治体の図書館（など）で、デジタルアーカイブに取り組むところが出てきている。が公表中のデジタルアーカイブを検索するツールがない。アーカイブが消えれば公開していた事実も見えなくなってしまう。現状を調査してリストを作るとか、横断的に検索できるツールを作成することなどが考えられる。
 - ・総会記念講演会が一つのきっかけになるのではないか。
 - ・日本図書館協会のメールマガジン 1096 号（7 月 20 日）に以下の記事が出た。
- saveMLAK、公共図書館でのデジタルアーカイブ公開状況調査（2022/07/09）の結果を公表
saveMLAK は、第 30 回調査の付帯調査としてデジタルアーカイブの公開状況を調査しその結果を公表している。調査では、デジタルアーカイブを「何らかのデジタルコンテンツを公開しているもの」と定義し、図書館内限定で公開・利用のアーカイブも含んでいる。COVID-19 の調査と同様、ウェブサイトを目視する形で行っている。
1738 館中 276 館（15.8%）でデジタルアーカイブを公開しており、都道府県別でデジタルアーカイブ公開率が高いのは、東京都（47.5%）となっている。
※詳しくは下記リンク先を御覧ください。

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20220716DA>

- この調査の結果によると、多摩地域でデジタルアーカイブを公開しているのは 15 自治体となり、かなり普及は進んでいる。ただし、デジタルアーカイブの定義は一定ではない。

(3) 各市が所蔵する資料で ISBN が入力されていない資料の遡及入力について

- ・たましん歴史資料室で行った ISBN の遡及入力を各市の情報に適用し、その作業を行う。目録の整備が進み、TAMALAS で確認できる範囲が広がる。その図書館との交流は深まる。
- とりあえず、どこか 1 市でやらせてもらえればいいのか。打診中。

(4) 配信で公開され始めた国立国会図書館の蔵書のデジタル化資料の中に、多摩地域の地域資料がどのくらいあるかの調査

(4) 第 4 号議案 多摩デポ実践講座の今後の実施に向けた検討について【報告・討議】

- ・昨年度から、資料検索や資料管理など、多摩地域の図書館職員の実務にも役に立つように的を絞って、多摩デポ実践講座を ZOOM で 3 回実施した。参加してくれた方には好評だが、次第に積み上がっていく感じがなくて、日程や企画などの点検が必要と考えている。
- ・一方で、館長協議会では規約改正があり、今年度から、図書館サービス研究会で扱うテーマの中に、除籍資料担当者会の課題が含まれることが明文化された。
- ・図書館サービス研究会の担当館長（会長）の協力が得られることになり、多摩地域の各自治体の図書館と一緒にアンケートを実施する予定で、内容を作成中である。

- ・内容は、多摩デポの TAMALAS が各自治体での除籍作業にどの程度使われているか、有効か、各自治体の除籍作業の仕組みや頻度、3月に図書館サービス研究会から配信した研修動画（府中市立中央図書館の TAMALAS 一括処理システムの事例報告）を視聴した感想など。
- ・このアンケートで、各自治体の実態が明瞭になれば、「資料除籍のガイドライン」完成に向け、サービス研究会の今期の活動をどこから始めるか、また実態に合わせて多摩デポ実践講座で取り上げたらいい企画や切り口が見えてくるのではないか。
- ・第3回実践講座のテーマだった TAMALAS 一括処理システムの普及を、講座のやり方を工夫しながら再度行うのでいいのか、それともその前に行うべきことあるか、そこから始めていきたいと考えている。
→ 現在事務局で考えている案を報告し、意見交換した。

(5) 情報交換

- ・「里親探し」事業について、昨年度に「里親本」提供の依頼を受けて他自治体に斡旋した府中市立図書館から、近日また依頼したいという連絡が来ている。
- ・『多摩デポ通信』第61号は、季刊の会報としては、本来は7、8月に発行予定だが、必然的な記事がなく発行が遅れている。総会記念講演を視聴して出てくる市民と職員の両方からの感想や意見を載せられればいいと考えている。一方で、メール不着の会員への注意喚起や連絡を、この機会に通信の紙面で行えたらいい。会員への動画配信が続いている途中で（9月一杯だとすれば、8月中にでも）発行できればいいと考えてきたが、進んでいない。
→ 職員向けの実践講座でなく、広く会員向けの多摩デポ講座も事務局で検討をしてもらいたい。

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 8月12日（金）午後8時より、Zoomを使って
- ★ 事務局会議(2022年度第7回) 8月31日（水）午後8時より、Zoomを使って
- ★ 次回理事会 第5回理事会 10月11日（火）午後8時より、Zoomを使って

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、齊藤誠一理事、田中ヒロ理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2022年8月9日

議長

議事録署名人

議事録署名人